

令和3年7月25日

「新型コロナウイルスワクチン接種の即時中止を求めます」に関する陳情書

太宰府市議会議長

陶山 良尚 殿

＜陳情の要旨＞

「新型コロナウイルスワクチン」は、治験が終了しておらず安全性が確認されていません。治験期間中のワクチンを広く市民に接種することは「人体実験」と同じです。また、新型コロナによる死亡者0名の子供や若年層にはワクチン接種の根拠はなく、接種は全く必要ありません。

安全性が確認されておらず、死亡や重篤な副反応を引き起こす「新型コロナウイルスワクチン接種」を直ちに中止することを強く求めるものです。(資料別途添付)

＜陳情の理由＞

令和3年6月9日時点での新型コロナウイルス感染症による死亡率（死亡者数の検査陽性者数に対する割合）は、30代以下：0%、40代：0.1%、50代：0.3%、60代：1.3%、70代：4.8%、80代以上：13.1%です。80代以上の死亡者の平均年齢は平均寿命とほぼ同じです。

このように死亡率がごく低いにもかかわらず、国民全員に対してワクチン接種を勧める政府の方針に反対し、6月24日、新型コロナウイルスワクチンの安全性を懸念する全国の医師や議員450名が厚生労働省にワクチン接種の中止を求める連名の嘆願書を提出しました。この中で、発起人の高橋徳・米ウイスコンシン医科大学名誉教授は、厚生労働省のホームページで公表されているデータをわかりやすく説明し、「死亡率が非常に低く、感染者の80%が軽症にもかかわらず、安全性もまだ分かっていない遺伝子ワクチンを国民全員に接種させる必要があるのか疑問だ」と説明されています。新型コロナウイルスワクチン接種を受けた方の死亡や重篤な副反応は増加する一方です。インフルエンザワクチンは過去10年間（2009.10～2020.04）の接種で死亡者19名に対し、新型コロナウイルスワクチンはたった4ヵ月半で、接種後の死亡者550名以上の異常事態です。

また、新型コロナによる死亡者0名の子供や若年層に対しても、ワクチン接種を止めようとしません。死亡者がいない以上、ワクチン接種を勧める根拠は見当たりません。このような異常な政策は、あらゆる場所で同調圧力を生み出しワクチン接種による被害を拡大する要因となっています。

「新型コロナウイルスワクチン接種」を直ちに中止し、健全な社会を取り戻して下さい。

※450人の議員医師団による新型コロナワクチン接種中止の嘆願書を厚労省に提出後の記者会見。

参議院会館での報道

<https://odysee.com/vaccine22997983:d>

